

主 催 者 挨 拶

齋藤十郎 地球環境行動会議 (GEA) 会長

2015年10月15日 開会式

皆様、おはようございます。本日ここに皇太子殿下同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、また、安倍内閣総理大臣にもご出席を賜り、GEA国際会議を開催できますことは誠に光栄であり、主催者を代表して会議開催にご尽力いただいた関係各位のご努力に厚く感謝を申し上げたいと思います。

今年も世界中で異常気象が顕著となり、我が国においても記録的な数の台風が襲来、過去に例のない豪雨が頻発し、国民生活に甚大な被害をもたらしました。今なお、復興に苦しんでいる被災地の方々に心からお見舞いを申し上げます。

いよいよ気候変動による地球環境の危機が目の前に迫っている感じがいたします。

IPCCの第5次評価報告書は地球温暖化の主な原因が人間活動による可能性が極めて高いと指摘しております。来月にはCOP21がパリにおいて開催されます。人類の生存基盤である地球環境を危機に陥れているのが我々人間の活動であるならば、人類が英知を結集して全力を尽くして危機を回避する努力をしていかなければなりません。その努力を具体的な行動へと結びつけていくのがCOP21の大きな使命であります。

今回のGEA国際会議は「気候変動対策と持続可能な社会の実現に向けて」、未来に向かう道を探ることをテーマに開催するものであります。世界各国から第一線で活躍しておられる有識者をお招きし、我が国における各分野の権威者と討論していただき、文字通り英知を結集する国際会議であります。2日間の会議を通して活発にご議論をいただき、その成果がCOP21の成功へ向けた国際世論の喚起に少しでも貢献できれば幸いであると思います。

今回の会議に内外からご参加くださいました皆様に改めて感謝申し上げ、主催者を代表してご挨拶といたします。ありがとうございました。

丸川珠代 環境大臣

2015年10月15日 昼食会

ご紹介をいただきました、このたびの内閣改造で環境大臣に就任をいたしました丸川珠代でございます。現在44歳で、子どもが3歳でございます。未来に対して一番現実感を持って臨んでおりますので、ぜひこれからもご指導よろしくお願ひ申し上げます。

改めまして、「GEA国際会議2015」に御参加の皆様、本日はようこそお越し下さいました。環境大臣として心より歓迎を申し上げます。

GEAは、竹下元総理大臣を発起人として設立され、地球環境問題の解決に向けた国際世論を喚起し、提言を発信する団体として活躍されていると存じております。

「気候変動対策と持続可能な社会の実現に向けて」をテーマとした今回の国際会議の開催に当たりましても、斎藤十朗会長をはじめ、GEA実行委員の方々の御尽力に心より敬意を表します。

気候変動対策、持続可能な社会の実現に向けて、本年は世界的に取組を強化する非常に重要な年です。先月国連サミットにおいて、2030年までの国際目標である「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。

そして年末にはCOP21が控えております。

気候変動は世界全体で取り組むべき重要な課題であり、国際社会全体による取組が急務です。主要排出国を含む全ての国が参加する、公平で実効的な新たな国際枠組みを構築すべく、我が国としても全力を尽くしてまいります。

最後になりますが、今回の会議が実りの多いものとなり、その成果が国際社会に向けて発信されることを祈念いたしまして、私のご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

齋藤 健 農林水産副大臣

2015年10月15日 昼食会

皆様、こんにちは。今日は「GEA国際会議2015」共催者の1人として心から皆様を歓迎したいと思います。私にも大学生と高校生の子どもがおりますので、皆さんと一緒に、よりよき地球を残すために努力をしていきたいと思っております。

はじめに、世界の人々が繁栄と健康を享受できる素晴らしい地球環境を次世代に継承するために、日頃から指導的かつ積極的に取り組まれておられますことに、皆さんに対して深く敬意を表したいと思います。

また今回の会議が、来たるべきパリでのCOP21に向けまして、大変大きな節目の時期に、このような「気候変動対策と持続可能な社会の実現に向けて」というテーマで、多くの皆さんに参加をしていただいて議論されることは大変有意義なことだと思います。

農林水産省も先月末に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の実現や、来月からパリで開催されるCOP21で合意を目指しております。「2020年以降の温室効果ガスの排出削減目標」の達成に向けて、努力をしていきたいと思っております。

また我が省の役割としましては、食料・農業分野における国際協力の推進に取り組んでいきたいと思っておりますし、また農林水産業や食品産業における温室効果ガスの排出削減、あるいは森林吸収源対策の着実な推進、それから農山漁村における再生可能エネルギーの導入等に積極的に取り組んでいるところであります。

また今年の8月には、農林水産分野の気候変動影響に適応するための計画を策定しておりまして、この計画を着実に推進していきたいと思っております。これから持続可能で美しい地球を作っていくために、この後も各セッションで気候変動対策や持続可能な社会の実現に向けた活発な議論が行われることを期待いたしております。

最後になりますけど、今日の昼食には日本のおいしい農産物、たくさん含まれておりますので、ぜひお楽しみいただいた上、ご帰国の際には、大いに宣伝をしていただけたらと思います。ありがとうございました。

濱地雅一 外務大臣政務官

2015年10月15日 外務省主催 歓迎レセプション

ご列席の皆様、「GEA国際会議2015」の開催に際しまして、世界中から皆様を日本にお迎えできましたことを、大変嬉しく存じます。

本年は、気候変動を含めた地球環境問題、また、持続可能な開発にとって極めて重要な節目の年でございます。先日、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」がNYで採択をされました。また、11月末からは、パリでCOP21が開催され、2020年以降の気候変動に関する新たな国際的な枠組について議論される予定でございます。

今回の国際会議のテーマである「気候変動対策と持続可能な社会の実現に向けて」は、まさしく時宜を得たもので、今後の地球環境問題の方向性を議論する有意義なものであると確信しております。

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」は、持続可能な開発の実現に向けた長年の努力が結実した歴史的なアジェンダであります。人間を先頭に、地球、繁栄、平和、パートナーシップと続く「5つのP」。女性、保健、教育、防災、質の高い成長などの日本が重視してきた要素が含まれています。これは、2030年までに貧困を地上から撲滅し、持続可能な世界を実現しようとする我々の取り組みを導くに相応しい野心的なものと考えております。

気候変動問題に効果的に対応するためには、国際社会が一体となって取り組むことが不可欠であります。その意味で、パリで合意を目指す新たな枠組は、全ての国が参加する公平かつ実効的なものとなるべきと考えております。

気候変動問題に関しましては、我が国は、2013年から14年までの2年間で官民合わせて約200億ドルの支援を、途上国における気候変動の緩和と適応のために実施をしてまいりました。また、本年5月には、緑の気候基金(GCF)に対して15億ドルを拠出するための取決めに署名しております。

ご列席の皆様、本日、ここには、世界の持続可能な開発を支えるさまざまな分野について高い見識をお持ちの方々にお集まりいただいております。特に、地球環境の将来のためには、政府だけではなく、経済界、学会、NGO等全ての関係者がグローバルなパートナーシップを築いて取り組むことが重要と考えております。政府としては、世界が今、直面する諸問題に、皆様のご知見をお借りしつつ、国際社会とともに答えを見いだすべく、努めていく所存でございます。ご静聴、ありがとうございました。

山本順三 国土交通副大臣

2015年10月16日 昼食会

皆さん、こんにちは。国土交通副大臣の山本でございます。はじめに、本年の「GEA国際会議2015」のために、国内外からお集まりの皆様方を心から歓迎を申し上げたいと思います。また準備に当たられました地球環境行動会議の皆様をはじめ、関係の方々には心より感謝を申し上げます。

国土交通省は、人々の生き生きとした暮らし、これを支える活力ある経済社会、日々の安全確保、良好な環境の創出・保全、多様性のある地域を実現するため、ハード・ソフトの基盤を形成することを使命といたしております。環境分野では、「低炭素社会」、「自然共生社会」、「循環型社会」の実現に向け、様々な施策を講じております。

運輸分野や住宅・建築物分野など、国土交通省が関連する分野からのCO₂の排出量は、我が国全体の約5割を占めております。このため、低炭素社会の実現に向け、燃費のよい環境対応車の開発・普及促進、住宅、建築物の省エネ性能の向上、都市機能の集約化による低炭素まちづくりの推進に積極的に取り組んでいるところでございます。

また最大限のCO₂排出対策を講じたとしても、気候変動による影響は避けられないとの国際的認識を踏まえ、国土交通省では、影響が懸念される自然災害や渇水の頻発化等に対して、防災対策等必要な対策を講じるとともに、気候変動の監視や調査研究等も含めた適応策を計画的に進めるために、政府全体の適応計画策定に合わせて、国土交通省としても気候変動適応計画を策定することといたしております。

本年の「GEA国際会議2015」において、国内外の地球環境問題の専門家の皆様の活発な議論を経て、その成果が地球の持続可能な未来に大いに貢献することを期待申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

北村経夫 経済産業大臣政務官

2015年10月16日 昼食会

ご紹介いただきました経産大臣政務官の北村経夫でございます。本日はGEA国際会議にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。地球環境問題の解決、持続可能な開発という非常に難しい問題、その両立に向けて、このGEAの長年にわたるご貢献、ご功績に対しまして、心より敬意を表させていただきます。

さて、今年末にCOP21が開催されます。ここで「全ての主要国が参加する公平かつ実効性のある新たな枠組み」に合意されることが期待されているところでございます。我が国を含め、既に約150もの国や地域、この150の国・地域が削減目標を提出しております。パリ合意へ向けて、機運が高まっているところでございます。

このように各国が自主的に設定した目標を宣言し、国際的にレビューする方式、これは我が国が長年主張してきたものでございます。この流れを世界が受け入れつつあるのは、交渉の成果であり、日本にとっても国益にかなうものでございます。

気候変動問題の抜本的解決のためには、技術がカギとなっております。エネルギー・環境分野の革新的技術の開発と普及により、世界全体が低炭素社会へと大きく転換することが不可欠でございます。

イノベーションの促進に向け、我が国は、世界の産学官のリーダーが議論するプラットフォームとして国際カンファレンス“*Innovation for Cool Earth Forum*” (ICEF/アイセフ)を昨年創設いたしました。先週開かれた第二回年次総会には、約70カ国から1000の方が集まりました。

また、パートナー国が15か国に拡大した二国間クレジット制度(JCM)を進め、優れた低炭素技術を途上国に普及させてきております。

最後に、GEA国際会議がCOP21に向けた機運を盛り上げ、更に、気候変動対策と持続可能な社会を実現していく上で重要な役割を果たされることを心より祈念申し上げて、私からのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

谷津義男 GEA相談役／元農林水産大臣

2015年10月16日 GEA主催レセプション

こんばんは。私は大木先生とともにGEAの相談役をさせていただいております谷津義男でございます。

はじめに本日、このレセプションにご出席いただいております公式参加者の先生方、そしてまたスタッフの皆さん方、あるいはこの国際会議において大変な同時通訳をやってくださいました皆様方に心から感謝を申し上げます。

この2日間の討議におきまして大きな成果を上げたものと私は信じております。

今回の国際会議は「気候変動対策と持続可能な社会の実現に向けて」というのをテーマにさせていただきました。各専門の先生方のご出席をいただくと同時に、いろいろな面でのご指導もいただいたわけでございますけれども、本当にありがとうございました。

ご案内のとおり、18世紀の半ばからいわゆる産業革命が起こりまして、経済第一主義ということで活動しておったわけでありましたが、気がついてみたら自分たちの生活のもとであるこの地球が汚染されてきたということございまして、この危機に対しまして、今皆さん方も大変な危惧の念を持っているものと思いますが、こうしたものに対しまして、今日も、あるいは昨日も有意義な議論がございまして、私も大変喜んでるところでもございます。

しかし、このようなことは人間が行った技でございます。そういうことでありますから、これを解決するのも私は人間の方でできると確信をしているわけであります。

今回の会議におきましてもそういったことに適切なご示唆、またご意見等をいただいたわけでありまして、こうしたことは結集をされて、未来に対しましてしっかりと引き継いでいく基盤をこの際作っていく必要があると思いますので、先生方のご指導をよろしくお願いをいたします。

COP21に対しまして、人類の英知が結集されますことを私は希望いたしますけれども、これからも皆さん方のご指導をいただきながら、こうして連続してしっかりとその辺のところを主張し、そして行動に移っているということが大事だと思いますので、感謝を申し上げながら挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

豊田真由子 文部科学大臣政務官

2015年10月16日 GEA主催レセプション

皆様、こんばんは。ただいまご紹介を賜りました文部科学大臣政務官を拝命しております豊田真由子と申します。文部科学省を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げます。

この2日間にわたりまして、GEA国際会議を成功裏に開催することができましたことを、共催者であります文部科学省としても誠に喜ばしく思っております。今回の会議に遠方よりご参加をくださった国内外を代表する著名な先生方、また、この会議の開催にご尽力されました斎藤十朗会長先生、また広中和歌子事務総局長先生をはじめとされましたGEA事務局長、ご関係の皆様、また実行委員会の皆様、そしてこうした場を様々なロジスティクスをおやりになるのは本当に大変だと思いますが、そして皆様が支え合っただの大成功というふうに変に感謝を申し上げます。

今回のGEA国際会議におきましては、気候変動、そして持続可能なこの地球の成長という形での熱心な議論が行われたと承知をいたしております。申し上げるまでもなく、この気候変動、地球温暖化の問題は本年9月の国連総会で採択されました「持続可能な開発のためのアジェンダ2030」にも目標として掲げられました地球規模課題の最も重要な解決すべき課題の1つでございます。

我々はこうした気候変動のもたらすさまざまな予測される脅威に実際に対応していく、そのためにも科学技術がこうした脅威への対応に重要な役割を果たすことが求められております。学术界、そして産業界を初めとした各界の皆さんが一体となり、「社会のための、社会の中の科学技術」の実現に取り組まれるとともに、科学者と社会のステークホルダーが協働して、そしてさまざまな分野の科学の力を結集して協働してこの課題を解決していくこと、それが非常に重要であると考えております。

文部科学省といたしましては、この2日間のGEA国際会議でのご示唆も踏まえまして、地球温暖化への適応や、また温室効果ガスの削減等に必要な省エネ技術の開発、あるいは高精度な衛星観測や海洋観測を可能とします、そのための地球観測技術の開発、そしてそうした観測データの利活用を通じた科学技術イノベーションの創出、そしてその社会実装に積極的に取り組むことにより、最先端の気候変動対策を通じた持続可能な社会の実現に向けて貢献をしてみたいと考えております。

先ほど谷津先生がおっしゃられました「人間の成したことは人間の英知を、力を結集して必ず解決することができる。」私どもはこの信念に基づいて、そして人類が将来にわたって、未来の子供たち、持続可能な未来を実現していくことにこの会議が、また皆様方が今後ますますご活躍をされますこと、そして本日お集まりの皆様、ご家族様、皆様のご健勝、ご活躍、そして皆様、力を合わせて、この人類の明るい未来に力を合わせていきたいこと、そのことを皆様とともにここで確認をさせていただきます、お祝いの挨拶といたします。本当にお疲れさまでございました。ありがとうございます。